



事前セミナー 3 日目に行われた「インタビュー技法養成講座」

第3部

未来へつなぐ バトン

戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える、“次の世代”として

「千代田区戦争体験記録集」インタビュアーの活動報告

平成27（2015）年は「国際平和都市千代田区宣言」から20年目、太平洋戦争終結から70年目の節目の年です。戦争体験者が高齢化しているため、戦争の記憶を後世に語り継いでいくことが今後だんだんと難しくなっています。70年前の戦争を知らない若い世代の方が、太平洋戦争当時に区内で戦争を体験された方へのインタビューを通して生の体験・声を聞き、記録集にまとめることを目的として、区内在住・在勤・在学の16名の方にインタビュアーとして活動していただきました。

インタビュアー向け事前セミナー（全5回）

6月4日（木）

区からの挨拶と、参加者の自己紹介
太平洋戦争の回顧と反省

佐川雄一（公益財団法人日印協会評議員）



6月11日（木）

千代田区における戦時下の生活

滝口正哉（千代田区立日比谷図書文化館文化財調査指導員〔歴史〕）
加藤紫識（千代田区立日比谷図書文化館文化財調査指導員〔民俗〕）



6月18日(木)・25日(木)、7月2日(木)

インタビュー技法養成講座(全3回)

伊藤友江(NPO法人日本インタビュアー協会会長)

1回目

・インタビューの基本
・インタビューの技法 など

2回目

・質問表の作成と発表
・ペア実習 など

3回目

・質問表作成の講評
・ペア&グループ実習 など



「千代田区戦争体験記録集」のインタビューを終えて

集まった中学生から30代までの皆さんは全5回の事前セミナーを経て、戦争体験者への取材ごとにチームを組みます。それぞれが「聞きたいこと」を調べたり、資料にまとめたりして、平成27（2015）年7月〜8月にかけて「太平洋戦争当時、千代田区で何が起こっていたのか」を知るために26名の戦争体験者にインタビューを行いました。



いとう しょうか
伊藤 爽

区内在学
高校3年生

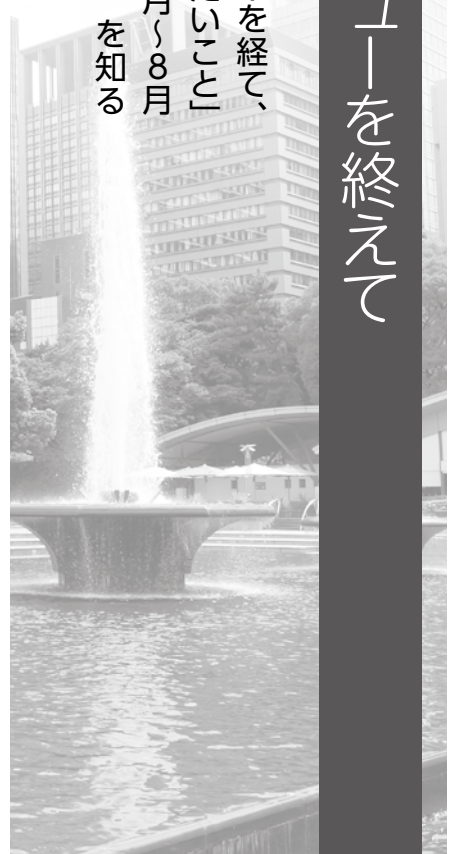
私がお話を聞かせていただいたのは、第二次世界大戦時、最前線で戦った経験のある方でした。お会いする前は、どんなお話をどのように語っていただけるのだろうか、と、内心、かなり悲惨な語り口調を思い描いていました。

けれど、実際に話していただくと、自分のそういった予想が、すでに平和な世の中で育ってきた人間の感覚なのだ、と痛感しました。戦争を体験した人の中では、私たちがとても信じられないと思うようなことが、当たり前前の感覚になっているように感じ、「この話は実際体験しないと、話を聞いても分からない」と言われたことに、返す言葉がなかなか見つかりませんでした。

戦争の悲惨さを肌で感じていた人々と同じ感覚で、平和な世界を継続させよう、と考え

るのはこの先の世代では難しいことと思います。

戦争を体験していない私たちは、戦争を知らない、ということの恐ろしさをもっと重く受け止めれば、また違った感覚で、語り伝えられた話や映像などをもとに、平和な世を構築していけるのではないかと考えます。今後の日本の未来を作る人間の一員として、今回の経験を色々な人へつなげて広められたらと思います。





おおすが
りゅう
大須賀 龍

区内在住
高校1年生

今回、戦争を体験された方々にお話を伺って思ったことがある。それはこれからの日本は私たち若い世代が担い、70年前に終戦した戦争を学ばなければいけないということだ。若い世代が過去の戦争を学ばなければ、平和な未来は築けないと考える。その戦争を学ぶ教材として、戦争を体験された生の声はいちばんの教材であるのだ。生の声を心で受け止め、伝える。私たち若い世代の使命として、平和の大切さについて、これからも考えていきたい。



たにがき
ゆの
谷垣 柚乃

区内在住
高校2年生

今回のインタビューを通して私は「勇気」をもらいました。それは戦争体験を話してくださった皆さん全員が、私たち聞き手に対して強いメッセージを持っていたからです。今まで、私は自分が暮らしている今の日本が戦争という歴史の上に成り立っているのを知っていましたが、それを実感したことはありませんでした。ですが実際に身近な人が戦争で亡くなった方やご自身が訓練を受け戦地に行った方の話を聞いて、これまでは数字でしかなかった戦争で亡くなった人たち、そし

て戦中戦後を生きた先人の一端に触れることができました。

この歴史をしっかりと受け継ぎ、これからの日本や世界を支えていかなければならないと強く思うことができたとインタビューでした。





ちの あやか
千野 彩佳

区内在住
高校3年生

私は、今回インタビューをさせていただき、戦争体験を語り継ぐことだけでなく、これからの人生で大切なことを学ぶことができました。本当の意味で100%は私たちに理解し難い辛い体験を、ただ無駄だったと言っただけでなく、受け止め、その捉え方を変えて好きなことに打ち込み、あの戦争があったからこそ今の自分がある、と全てに感謝するという姿勢に心を打たれました。

本当に大切なのは、体験とともにその思いを伝えていき、私たち一人ひとりのものにするることなのだと感じました。あの恐ろしい

戦争を、ただ過去のものではなく、今に、そして未来につながるものとして捉えて私たちが未来を作っていく、という気持ちを大事にしたいと思います。ありがとうございます。ありがとうございました。



とみやま あみ
富山 愛菜美

区内在住
大学3年生

戦後70年を迎えた平成27(2015)年、戦争体験者の平均年齢が80歳を超え戦争の記憶を風化させないためにも、若い世代が語り継ぐ・記録として残していく必要があるのではないかと思いつきました。

千代田区戦争体験記録集のインタビューアとしての主な活動は4つありました。「事前セミナー歴史講座」では、戦前の時代にとどのような生活を送っていたのか、風習、戦争の被害、千代田区の状況などワークショップを交えて学びました。歴史講座の後には、「事前セミナーインタビュー講座」がありました。

インタビューの基礎・手法を学び、実際にインタビューを想定した戦争体験者による模擬インタビューを行い、講師の方に直接アドバイスをいただきました。

5回の事前研修後は、「事前準備」としてインタビューアの資料を基に質問票の作成をしました。「本取材」では、区役所や出張所に行き2時間程度のインタビューを行いました。

本書や映像を通じて、1人でも多くの方々に戦争の悲惨さや、体験者の抱いている想いを知っていただけたらと思います。



ないとうのぞむ
内藤 望
区内在住
大学2年生

今回、戦争体験者の方とインタビューを終えて、70年前の日本がいかに悲惨であり負の過去であったかを強く痛感した。

誰も得をするはずのない戦争をなぜ人間は続けたのか。僅かな食糧で命をつなぎ、死と隣合わせの中で生き延びた体験者の方の言葉は私たちに訴えるメッセージであった。そして、私があなたに伝えたいメッセージは、自分から何も行動せず、ただ社会の空気のままに流されるかのように身を任せ生きている人間に平和などは訪れない。自ら行動し、創造し、チャンスをつかみ取り人生の可能性を最大

限に高めることができると思う人間にこそ真の平和が訪れるのではないのでしょうか。

そして皆さん一人ひとりが『平和』の意味および原点を見つけ常に疑問を持ち続けこの社会を変えていきましょう。



ながしま たい
長嶋 泰
区内在住
大学1年生

戦後70年を迎える今年、平和の時代の一つの節目として自分たちは先の大戦を経験した人々にインタビューをさせていただきました。

先の大戦の話をしていく方が少なくなっている今日ではとても貴重な話を自分たちは聞いた。空襲を体験した方、疎開を経験した方、そして実際に戦地に行かれた方：それぞれの話はとても重みがあった。実際に経験した人間でなければ醸し出すことのできない重みだった。戦争を体験された方々の話し方は三者三様それぞれ異なっていたけれど、その重みは例外なく存在していた。

自分たちは、その重みを後世に伝えていかなければいけない。つまり先の大戦の悲惨さを。戦後の辛さを、惨めさを。そして、決して戦争は繰り返してはいけないと。





にしやま
ゆり
西山侑里

区内在学
高校2年生

今回のインタビューでいろいろなことを吸収できましたが、積極的に質問ができず、体験者のお話を聞くことがメインになりました。インタビューすることは私の想像以上に難しかったです。戦争を経験していない私が、立ち入って良いのかという戸惑いがあったことに加え、的外れな質問をしてしまうのではないかと不安もありました。

でもインタビューをしていくうちに「私はなるべく聞くことに徹しよう」という風に思えるようになって、少し心が軽くなりました。今回のインタビューでの私の目標は戦争の核心に触れるというものでしたが、経験値の少

ない私の器では取り扱えるものではありませんでした。

しかし、生の声を聞き、戦争の真実を知る貴重な場であったことを実感し、この企画に参加できて、本当に良かったと思っています。体験者の皆さんの言葉一つひとつに重みを感じ、しっかりと受け止めることができました。私たちに伝えようとお話ししてくださった皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の経験をもとに、自分の中で戦争への考えを深めていきたいと思っています。

テレビや文章では分からない、直接お聞きして初めて分かることができました。

今まで私は戦争とは遠い昔のことであり、自分には関係のないものだと思っていました。しかし、このインタビューをして、どんな人にも戦争は関わりのあることで、それぞれが意見を持つべきだ、と考えました。さまざまなことを改めて考えさせられるインタビューでした。



まつざか
りりか
松崎璃々花

区内在学
中学1年生

私は、人前や初対面の人と話すことが苦手です。インタビューはとても不安でした。初めてのインタビューは、とても緊張しました。自分の思い通りのインタビューがうまくできませんでした。それが悔しくて、次は自分の聞きたいことを聞くようにしました。すると、だんだん質問できるようになりました。最後のインタビューでは、しっかりとインタビューと、自分の思いを伝えることができ、気持ち良かったです。

私は戦争体験者の方にお話をお聞きして、もう戦争をやってはならない、と感じました。



まつの たかのぶ
松野 和寛
区内在勤
社会人

今回の戦争体験者の方へのインタビューを通して、その時代を生きた方々のリアルな体験を直接聞かせていただくという非常に貴重な経験ができました。

戦時中の歴史的な出来事は学校で一通りのことを教わってきましたし、戦前生まれの祖母2人からそれぞれに当時の体験を聞くことは今までに何度もありました。しかしそれ以外の方の個人的な体験談を聞くことはほとんどありませんでした。特に祖母たちからは聞くことのできなかった男性の方の従軍体験のお話は初めて耳にすることも多く、文献から

しか知り得なかった従軍生活のイメージを自分の中でより具体的にすることができました。

今後はこの経験をこれからの未来を生きる人たちに自分の言葉で伝えていきたいと思っています。



みわだ そうま
三輪田 颯真
区内在住
中学1年生

ぼくのひいおばあちゃんは、区内で戦争を経験しました。ぼくは、このことを小さい頃から何となく知っていました。これまで戦争や平和に関心がなく、ひいおばあちゃんの経験を詳しく聞いてきませんでした。しかし、今回、戦争を経験された方が高齢になり直接お話を聞ける年月が残り少ないという話を母から聞き、インタビューに応募しました。ひいおばあちゃんには、戦争経験を語る側として参加してもらいました。

インタビューを通していちばん感じたことは、戦争は二度としてはいけないということ

です。お話しをしてくださった方が全員、インタビューの最後に戦争は絶対にだめだと仰ったことが深く心に残っています。ぼくたちが大人になると、戦争経験者が1人もいなくなってしまう世の中がやってきます。ひいおばあちゃんは、自分の経験を若い世代に話すことができよかったですと言っていました。皆さんも、身近に戦争を経験された方がいたら、ぜひ今のうちに話しを聞き、語り継いでください。ぼくも、もっと理解を深め、家族や友達に平和の尊さを語り継いでいきます。



やすだ りつこ
安田 律子
区内在住
大学院2年生

自分が生まれ育ったこの町で、かつて同じ時間を過ごした人々の話が聞きたくて、私はこの企画に参加した。

彼らの体験談から見知った町名や建物の名前が出てくるたびに、その体験が現実味を帯びて私の目の前に広がっていった。戦時中、学生であった方から実際に戦地に行かれた方まで、幅広い年齢層の方々に私はお話を聞く機会を得る事ができて幸いであった。視点の異なる時代観には共通する点もあれば、相違する点もあり、とても勉強になる。何よりも、当時を表す言い古された言葉の中に、確かに



よこやま りんすた
横山 嶺州多
区内在住
中学3年生

昨年度（平成26年）、千代田区主催の平和使節団で広島のを訪れ、ヒロシマの過去を知り、自分の身近な場所、千代田区で起きたことについて学びたい、と思うようになった。そして、今年インタビューになった。

戦争を体験された方々の戦争に対する思いはさまざま。普段の生活では聞けない貴重な体験談は悲惨な過去を物語っていた。お互いが助け合って生きてきたからこそ戦争を乗り越えられた。体験者の方々の話をそのように受け止めた。

仲間を大切にしていこう、と改めて心に誓った。



あの時代を生きた個人を見る事ができた。
インタビューを続けていく中で、私は彼らの青春を忘れてはならないと強く思った。





インタビューを終えて



よしか
吉岡さくら

区内在学
高校2年生

私は、今回、母のすすめでこの企画に応募しましたが、インタビューをしておどろいたことは、戦時中でも人々はちゃんと暮らすことができていたということです。確かに戦争で人々の暮らしは今は全く違います。しかし、インタビューでの話の中で暮らしの知恵や家族の話聞いて、教科書だけでは分からない人々の生きる力というものをすごく感じました。

また、どの方も今の私たちの生活はとても幸せなものだとおっしゃっていました。私は、毎日普通に学校に行きいろいろと悩むことも

ありますが、それ自体がとても幸せなことだと気づかされました。

私は戦争を経験したことはなく聞くことでしか知ることはできません。しかし、聞いて得た確かなことを少しでも次の世代の人に伝えていきたいです。

「千代田区戦争体験記録集」
インタビューの皆さん（50音順）

- | | | |
|------|-------|-------|
| 泉政秀 | 富山愛菜美 | 三輪田颯真 |
| 伊藤爽 | 内藤望 | 安田律子 |
| 大須賀龍 | 長嶋泰 | 横山嶺州多 |
| 伊達悠二 | 西山侑里 | 吉岡さくら |
| 谷垣柚乃 | 松崎璃々花 | |
| 千野彩佳 | 松野和寛 | |

国際平和都市千代田区宣言

地球は 生命が息づく かけがえのない星
この地球を 平和と希望にみちた
輝く星にしよう

過去 私たちは 戦争を経験した
多くの人びとが傷つき 犠牲となった
二度と戦争が起こることのないように
かたく誓い いつまでも 後世に伝えていこう

現在 世界の各地で まだ争いがある
飢えで 苦しんでいる人びとがいる
地球環境の破壊が つづいている

今はもう自分たちだけの平和と安全を
考える時代ではない

国際都市千代田区に住み 働き 学ぶ私たちは
世界の人びとと 連帯して 核兵器をなくし
平和な世界を築きあげよう

未来に向かって 世界の人びとと 友好を深め
同じ地球の仲間として お互いを理解しあおう
私たちは 世界の恒久平和を 実現するために
積極的に 行動することを
ここに宣言する

平成7年3月15日

千代田区

Chiyoda City International Peace Manifesto

Brimming with life, Earth is our only home and we should make it a brightly shining star, full of peace and hope.

In the past, we have experienced war. Many people suffered grievous injuries and many lives were sacrificed. Let us solemnly pledge to future generations that war will never occur again.

Today conflicts continue around the globe. People are hungry and in pain. Environmental destruction continues.

This is not a time to think only of our own peace and security.

We who live, work, or study in the international city of Chiyoda must join hands with the people of the world to strive for global peace and the elimination of nuclear weapons.

As we look to the future, let us strengthen our friendship with the people of the world and strive for mutual understanding among all of our brothers and sisters on Earth.

We hereby declare that we will actively pursue the attainment of eternal peace on Earth.

March 15, 1995 Chiyoda City

